

市長室：対話の記録

要旨

開催内容の公開

市長あいさつ

得永会長あいさつ

意見交換

・対話集会までの経緯

・対話集会の目的

1 看板、道路案内表示について

2 ホームページについて

3 嵐山公園との連携について

4 その他(嵐山ジャンプ台の活用について・街灯について)

5 旭川の観光行政と市民の役割について

市長終わりのあいさつ

第 61 回目となる今回は、旭岡の「北の嵐山」（旧嵐山陶芸の里）で、ガラスや染色の工房、クラフトのギャラリー、カフェ、雑貨屋などを経営する人たちが構成する「北の嵐山観光連絡協議会」（得永光利会長）の会員（20 社）の方々と、これまでの活動状況や、「北の嵐山」及び市全体の観光振興策などについて対話、意見交換を行いました。



日時	平成 23 年 12 月 20 日(火) 午後 6 時 00 分～午後 7 時 15 分
場所	淳工房 ショールーム 2 階 (旭川市旭岡 2 丁目 8 番 1 号)
相手団体	「北の嵐山観光連絡協議会」(得永光利会長) (当日の出席者 9 人)
出席者	旭川市長 西川将人 「北の嵐山観光連絡協議会」(五十音順 敬称略) 大谷泰久(染あとリエ草創) 大谷岬子(染あとリエ草創) 小川宗北(遠州流茶道 成名庵) 菅井淳介(淳工房) 菅井睦子(淳工房) 得永光利(クラフトブラウンボックス) 西野目みどり(フランボアーズ) 板東光太郎(大雪窯) 山田克己(山田-ya)

対話の内容

※この度の対話集会では、「北の嵐山観光連絡協議会」の皆さんから配付された資料に基づいて意見交換が行われた場面もありましたので、文書として分かりづらい部分もあろうかと思いますがご了承ください。

配付資料は、前ページの開催内容一覧に添付していますのでご覧ください。

市長あいさつ

今日は、「北の嵐山」で様々な分野でご活躍をされております皆様方との対話集会の機会を持たせていただき、たいへんありがとうございます。

こちらは雪も多く、また坂も多くたいへんな所ではありますが、夏、冬問わず、旭川の中で芸術の薫る地域として、旭川の格を皆さんに上げていただいていると思っています。

今日は久しぶりにこちらの方にお邪魔させていただきました。いろいろと地域の課題、問題またご提案があると思います。限られた時間ではありますが、ぜひ皆様方からいろいろとお話を聞かせていただき、また私たちもそれに応えさせていただくことで、この地域がもっともっとすばらしい地域に発展していくことができればと思っています。今日はどうぞよろしくお願いいたします。



得永会長あいさつ

こんばんは。今日は師走の忙しいところ皆様お越しいただきありがとうございます。

1時間という限られた時間ですが、具体的なお話や、未来を語るような大きなお話など、いろいろとあると思います。この懇談会が終わる時には、市長が一番のこのエリアのサポーターになっていただければと思っていますので、よろしくお願いします。



～意見交換～

参加者から寄せられた意見と、市長のコメントについてまとめたものを掲載します。
(以下、参加者の皆様については、敬称を省略させていただきます)

対話集会までの経緯

菅井

今日は市長や関係部局の職員が出席していますので、私たちがいつも課題としていることとお話し、何らかのかたちでいい解決策や、また提案ができればいいと思っています。

最初にこの対話集会に至るまでの経緯や目的について、山田さんからお話し願います。

山田

私は昭和 53 年にこちらの地域に住み、33 年が経ちます。今日の参加者の中では一番長く住んでいます。この地域に窯が設けられたのは昭和 53 年より以前で、それは大雪窯さんでした。その後、バイパス工事のために大雪窯さ

んがこの山の上に移転してきたという経過があります。平成 13 年に「嵐山陶芸の里観光連絡協議会」が立ち上がり、その中で案内看板やPRの方法などについて話し合いが進められてきました。連絡協議会が設立される1年前には、陶芸の里に窯元が7窯あり、その他に硝子工房や染工房、茶房や喫茶店、レストランもあるという状況の中で、皆さんそれぞれで案内看板を作り立てましたので、非常に目に余る状況になってしまいました。そこで連絡協議会をつくって看板等の整備をしようということになり、これまで看板の整備等が行われてきたところです。今現在、地域の窯元は5つとなりましたが、北の嵐山の会員の方は 20 社になります。

以前の「陶芸の里」という名称についてですが、窯元の他にガラス工芸や染色など様々なジャンルの工房があり、レストランやカフェ、庭園などがあることから、名称と地域の現状が合っていないのではないかと、また、「陶芸の里」というと、記念館のような建物があって、そこで陶芸をしているようなイメージを抱いて来られる方が多いのですが、この地域では個々がそれぞれで行っているの、一般的に抱かれるイメージと違うということもありました。それからインターネットで「嵐山」で検索して、京都の嵐山と勘違いをして、なぜ陶芸の里なのかというような意見もあつたりしました。そこで、昨年行った「おもてなし事業」の中で今の名称に変更したり、またPRや宣伝媒体の整備も行って現在に至るのですが、その続きとして、皆さんから市長にもご相談したいことがあるということで、今日の集まりを開いているというわけです。

A3の資料

「北の嵐山エリア周辺誘導標識等資料(2011.11時点)」



以下は上記資料を部分的に拡大したものです。

①

①及び嵐山陶芸の里地図看板



対話集会の目的

菅井

今日の目的として、私たちが提案している『旭川地域における先進的モデル観光地として「北の嵐山」を位置付け、その整備を考えると旭川の観光行政と市民の役割を確認する』ことができれば理想だと思い、今日開かせていただくという次第です。

看板について、ホームページについて、嵐山公園との連携について、その他、旭川の観光行政と市民の役割についての5項目のうち、看板について得永会長からご説明、ご提案をお願いしたいと思います。

1 看板、道路案内表示について

得永

お手元にA3の資料があると思います。

今年の11月時点のこの近隣の案内看板の位置関係図とその写真です。「嵐山陶芸の里」から「北の嵐山」に名称を変更したのですが、市で設置している看板も含め、一部の看板について未だ旧称のままのものがあつたりします。

①の写真はとても昔の内容の地図看板であり、その隣の市の案内看板も古い名称のままの状態です。またこの看板は坂から下りてきた交差点にあつたりするので、ここで地図を見ていると危険だということもあつたりします。もっと見てすぐに分かるように、見やすい表示方法に変えたり、2つの看板を1つにまとめたり、また正しい内容のものに替えていただきたいと思つたりします。

市長

古いままの状態になっているということですね。

看板等位置図



A



④



B



板東

Aについて、鷹栖インターから出たところの青看板に、嵐山と鷹栖、旭川市街と表示されています。インターを出るところが一番最初に目に付く所になっています。そこから、嵐山と鷹栖方面へ曲がると、④の看板があるところへ出て、この看板の表記も「嵐山陶芸の里」のままとなっていますが、ここに至るまでの間のAとBの位置に北の嵐山への案内看板を設置するとうまく動線がつながり、スムーズに北の嵐山へ来ていただけると思います。

市長

Aと④は市で立てた看板なのでしょうか。

得永

Aは道です。④は市だと思えます。

菅井

実は今朝、上川総合振興局の方が来られたので、この話を少ししたところ、ここは道道なので、すごくストレートに言うと、市長の方から地元の要望ということで、道へ要望を出してもらおうと、自分たちも要求しやすいし、受け入れやすいと言っていました。

市長

道の方へ要望を出すことはできますので、どこへ看板を設置するのがよいのかなど、後ほど改めて現地を見ながら確認できると思います。

経済観光部長

Aの看板の嵐山という表記を変えるということではなくて、この看板の下に北の嵐山の案内看板を付けるということですね。

得永

そういうことです。

この④の看板を生かすためには、どうしてもそういう表記が必要になると思います。

経済観光部長

道の方で同じデザインのを付けてくれるか、もしくは市の方で作って、取り付けることを許可してくれるかということになります。

市長

それはそうですね。分かりました。

得永

①の看板について、事前に今日のこの参加者にアンケートをとりました。この2つの看板を生かした案内看板を設置するか、2つとも残した方がいいのだろうかなど、私たちの意見をまとめようということで、アンケートをとったところ、2つあるよりも1つのまとまった見やすい看板があるといいのではないかという意見が多かったので、それについても考えていただきたいと思います。

市長

それは少し検討させてください。

①の写真の看板は2つとも市の看板ですか。

古い物であれば改修しなければいけないのでしょうかね。

得永

そうですね。内容がかなり違ってきますし、名称自体も違ってきます。

市長

もう今はここにはない窯も載ってるんですよ。

得永

7, 8年前に閉じたところも載っています。

市長

それでは駄目ですね。

山田

この場所に丁寧に地図看板まで作っていただいたのですが、止まってこの地図をじっと見つめている人がおり、交差点にありますので、後ろから追突されそうになり非常に危ないです。

市長

危ないですね。撤去した方がいいのかもしれませんがね。

山田

文字情報だけだと、さっと見てすぐに曲がって行けると思います。

市長

そうですね。①の右の看板のようにですね。

山田

地図ですと行き先を確認をするために停まってしまい危ないです。

市長

私はいつもCの写真にある地図看板を見ているのですが、確かに①の看板は見たことはないですね。車で来るとここに停まれませんからね。

山田

停まるとぶつかりますからね。

市長

Cの看板もカーブの所に設置してあるので危ないと思います。どこか良い所に移設できるなら、その方がいいと思います。

C



得永

このCの写真は下のアップしたものをご覧になっていただければ分かると思いますが、いろいろな看板が乱立していることと、北邦野草園の看板が朽ち果てそうになっています。またこの矢印の向きが正しくありません。景観的に良くありませんので、きちんと整理するなど、ここはこれから観光スポットとしておもてなしをする上でも、このような細かなところから対応していかなければいけないと思います。これはこの地区だけの問題ではなく、市内にたくさんある看板の管理について考えてほしいと思います。

市長

見栄えが良くないですね。

政党の看板がありますが、これはどこの敷地に立っているかが問題ですね。道路敷地に立っているのであれば私から取り外してほしいと言えますが、個人の敷地に立っているものどうにもならないと思います。

菅井

個人の敷地の場合は私たちから政党の方にとってほしいと、個人の意見として自由に言えると思います。

それでもし取りたくないということであれば、それはどうしようもないことですが。

市長

いえ、言えば取ると思います。

私も昔、自分の看板をいろいろな所に立てましたが、言われたら取りに行きます。

この写真の看板は政党のポスターが貼ってある看板なので、選挙とは別で常時設置することができるものですが、後日、どこに立っているものなのか確認したいと思います。

得永

また、②の看板には今はない嵐山スキー場が表記されています。

市長

それも残ってるんですか。

菅井

結構そういうものが出てきます。

得永

今あるものを生かして使えるものもあると思いますので、それらを例えば北の嵐山の表記にするなど、検証していくといろいろと出てくると思います。

市長

嵐山スキー場はもうクローズしていますが、そのジャンプ台で練習している子どもたちがいます。

②



経済観光部長

ジャンプ台はクローズしていませんので、少年団などが使っています。スキー場としてはオープンしてないので、この看板の表記は誤解を招きますね。

菅井

「嵐山ジャンプ台」という表記であればいいと思います。

市長

表記を変えた方がいいかもしれないですね。

経済観光部長

この「陶芸の里」という看板は、取らなければならないので取り外して、「嵐山スキー場」の代わりに「北の嵐山」と入れるとすっきりするかもしれません。

市長

この件も含めて看板の件につきましては、対策を検討したいと思います。

観光課長

看板についての現在の状況ですが、土木部に確認しましたところ、近々発注する予定になっており、多分2月中には設置できるだろうということでした。

経済観光部長

今ある看板を「陶芸の里」から「北の嵐山」に変えるということですね。

菅井

①についてはどうでしょうか。大きな看板が2つあるから、右側の看板だけにするのか、左側の看板の中に右側の看板の3つの文字を入れるようにするのかなど、ここをどうするのかきちんと決めて提案しないとイケないと思います。

「北の嵐山」のロゴで看板を統一したデザインにしていますので、左の看板に右の看板の情報を移して、このロゴを表記して、右の看板を撤去するのが理想かなと思っています。

以前も市に提案したことがあるのですが、予算の関係もあり今に至っていません。

観光課長

「北の嵐山」をそういうロゴで統一するというのであれば、そのようにしたいという考えでいます。

得永

今、北邦野草園との連携ということで、こちらからもどうぞ北邦野草園へ行ってくださいなど、お互いに宣伝していこうと、野草園の方にも協力していただいたり、パンフレットを置いてもらったりしていますので、看板についても北の嵐山と北邦野草園はこちらですよというような表記ができればいいという話をしています。

市長

そうですか。今日決めていただかなくても、また皆さんで案をまとめていただいてご要望していただければ、私たちもそれに応えるようなかたちで動いていくことはできます。

観光課主査

この白い右側の看板は表記が間違っていますので、早めに変えましょうということになっています。

地図看板の方は危険なので、看板そのものを撤去するか、若しくは地図案内をするのではなく、ロゴを使ってウェルカムボードのようなかたちで、ここから北の嵐山になります、北邦野草園はこちらからというゲートウェイにできないかなというご提案をいただいています。

今、修正することに関しては、これはもう違う表記なので進めた方がいいのではないかなという合意をいただいていると思いますので、それは進めて構わないのかなとは思っています。

得永

思い付きなのですが、例えばこの右側の所にその左で載せようとしていたデザインを入れるというのはどうでしょう。道道や国道の看板のような同じフォーマットではなく、ウェルカムボード的なデザインをそこにはめてはどうでしょうか。

経済観光部長

他と連動性は保てないと思います。国道や道道までそれで統一するわけには多分いかないと思います。

菅井

ここだけになってしまうかもしれませんが、それでいいと思います。もう一つ隣の交差点にこのロゴのデザインの看板が立っていますので。

得永

スカッシュの所です。

菅井

そうなんです。12号線に向いて立っているのですが、こちらの方の一番メインの交差点にそういう看板が無いので、少し違和感があります。ですから、この左側の看板ではなくて、右側の案内標識をそのようなかたちにできるのであればそれがいいのではないかなと思います。

観光課長

ここだけでいいのですね。

そのロゴを入れたものでできるのかどうかは、土木部に確認してみたいと思います。

菅井

右側の看板は3枚の板がついているのではなくて、1枚の板に3枚のシールを貼っているってことですよね。

観光課主査

シールではなく直接書かれているものなのですが、北の嵐山の部分だけを上書きするというかたちなので、そのデザインを取り込めるのであれば、お話のあったかたちには対応できると思います。その場合、二重看板は必要なくなると思いますが、地図看板の方を危険なので撤去するというにしようか。

菅井

やはり看板が2枚もあるというのはいかがなものだろうと思います。看板が乱立することは良くないということから看板整備が始まったのに、自ら看板をたくさん立てるのは矛盾していると思いますので、今いろいろと私たちの中で議論をしているところなのです。

経済観光部長

右側の看板についても既に作業に入っているとすると、これを撤去するという選択肢は難しいと思いますので、撤去ということになると、左側の地図看板を撤去するということになるのかなと思います。

観光課主査

若しくは左側の看板に大きく北の嵐山のロゴをプリントするかですね。

市長

そういうものが一つあってもいいかもしれないですね。

観光課主査

撤去することと経費がそれほど極端には変わらないと思います。

小川

この2つの看板がバラバラに立っているから見た目が悪いですが、工夫して一つに見えるような感じに立てることはできないのでしょうか。

観光課主査

物理的にはできますが、建て直しということになりますので、金額的には難しいです。

普通の看板と違い、基礎がしっかり入っていますので、それを全部作り直すことになると、100万、200万円ではできないと思います。

得永

私たちの中でアンケートを取ったところ、2つとも残すか、1つにするかというところまででしたし、今のお話の中ではいろいろな選択肢もあったようですので、できましたら私たちの中でもう一度話合ってみます。

とりあえず、他の部分については作業を進めていってもらいたいと思います。

菅井

早急にご相談できるような案をつくりたいと思います。

観光課長

①の右側の看板にロゴを入れることができるかどうかについては、土木部の方に確認します。

菅井

③
ロゴをこちら側のロゴに差し替えることは可能かどうかということですね。その上の嵐山展望台と下の北邦野草園という表記はそのままなのでしょうか。看板のサイズはそのまま、デザインを変えることができればいいのかなと思います。色は変えないで形だけ変えるというような格好にしないと、すごく違和感があることになります。いずれにしても、なるべく観光課の方に私たちの意向をきちっと煮詰めた上でご提案させていただきたいと思います。

看板のことについてはいろいろとあるのですが、とにかくこまめに整備をしていかなければいけないということ、古いものは取らなければ駄目だということ、新しいものもいつまでも新しいわけではないということです。

山田

③の看板に北邦野草園と矢印が書いてありますが、このとおりに行っても野草園には着きません。看板についても誘導スタイルというか、デザイン自体もやはり考えていかないといけないと思います。ここの地域は山坂があるので、特に間違いやすいところです。

今、旭山動物園へはすごく行きやすくなりましたが、桜岡から旭川市内に戻ろうとしても、迷ってしまつてとても戻れません。

道路標識の大切さというのは、昨年、おもてなし事業を行って本当に痛感しました。全市的にこれを見直すともう少し便利になるのかなと思います。

2 ホームページについて

大谷

市のホームページについては、まだ「陶芸の里」という古い表記のままの箇所がありますが、最近はずすがによく直っていると思います。他の行政機関の悪い例ですが、8年間位変わっていませんので、今はない看板や場所がたくさん掲載されています。個人のホームページならいざ知らず、行政のホームページは、市民にとっては圧倒的に信頼度が高いものです。今起きたことが10分後にはホームページに載っているぐらいの感覚で一般の人は見ているので、迅速な対応をお願いしたいと思いますし、私たちからも指摘したいと思います。

菅井

ホームページの更新は、そんなに難しいことではないと思います。

私たちの方へ、データや情報を提供してほしいとよく言われますが、提供した情報がいつまでも載らなかったり、載っている情報が古いままだったりということが、市だけでなく、行政機関は多い状態です。それをどうするかで新たな情報に更新していくかということを考えてほしいと思います。

市長

言っていただければすぐに更新するのですが、多分気付いていないということだと思います。

得永

コンピュータのシステムの事ではなく、それをどのように更新していくかという、人間がどう運用していくかというシステムを考えてほしいと思います。

市長

専属の人間がいるわけではないので、課の職員が更新や修正等を行っています。間違い等が分かればもちろん直しますが、分からない場合もあるということですね。

得永

民間では、今年は何か変わったことありませんかと照会があり、変わったことがあれば連絡して直してもらおうということをしています。例えば一年に一度、4月なら4月に、お宅のところは変わったところはありませんか、チェックしてください、変わったところがあれば教えてくださいという照会等があれば、私たちがチェックすることができ、職員が変更箇所がないかとチェックする必要があります。そのような仕組みを考えてほしいと思います。それは専属の人がいなくてもできると思います。

もっと進んでいるところでは、私たちに更新をさせ、その代わりに私たちにある程度の自由度を与えているというところもあります。

市長

なるほど。そういうかたちもあるんですね。その辺は工夫できると思いますので、仕組みを検討させていただきます。

得永

お客さんから、「これないじゃないか」など、ホームページと違うという指摘があるのです。

市長

そうなるとホームページとしての信頼度が下がってしまいますね。

菅井

民間が管理運営するホームページは、掲載誤りがあると直接実害がありますので、神経質にこの情報は古くないですか、更新しませんかという連絡が来ます。それに比べて行政のホームページは実害が直接ないということもあり、誤った古い情報のままで放置されてしまうのだと思います。しかし、その苦情は役所に来るのではなく、私たちの方に来てしまいますから、お互いにより良い関係になりません。中途半端が一番よくないので、それならば削除してしまった方がいいです。

得永

観光スポットそれぞれでホームページを持っていると思いますので、市のホームページではそれぞれの観光スポットのホームページへの入口を掲載したインデックス程度でもいいと思います。あとはそれぞれの観光スポットで更新していきますので、もし更新ができないのであればそのようなやり方も一つの方法だと思います。

市長

なるほど。少し方法を検討させていただきたいと思います。

3 嵐山公園との連携について

菅井

この地域は嵐山公園があることで魅力が高まっている地域だと思います。今は冬で嵐山公園へ行きづらいということもありますが、夏にはキツネやリスが行き来していたり、この頃では鹿や熊の足跡を見掛けることもあります。そのような嵐山公園との連携がどのように深まっていけば、訪れたお客さんにより喜んでいただくことができるのだろうか私たちも考えています。成名庵の小川さんは、そこでお茶の会を開いたりしていらっしゃるが、小川さんから何かご意見はありませんか。

小川

旭川市全体の中から見てこの地域は本当に小さな住宅街だと思います。この中にこのように古くから陶芸などを行っている方たちがいて、その仲間に加えていただいて、いろいろと考えるところがあるのですが、基本的にはこの素晴らしい嵐山という自然があって、そこを基にしてこのすそ野にいろいろなものがあるという考えでいます。

個人的な話になりますが、夏も冬も私はほぼ週に5回ぐらい嵐山の展望台まで登ります。北邦野草園の園長やそこで働いている方たちには、すごく親しくさせていただいており、私も毎年、春の山開きのお手伝いなどをさせていただいています。

やはり嵐山公園との連携があって、初めてこの地域も活かされていくと思います。私の所へ来るお客さんは私の所だけを目指して来ているわけではなく、北邦野草園を見にきたり、ギャラリーで遊んだりしながら、成名庵でお茶を飲んで体験茶道をしてから嵐山公園に行こうという方が多く、また、嵐山公園に行ってからこちらに来た方がいいのでしょうかという時間の相談をよく受けます。このように嵐山公園抜きには考えられないところだと思います。北邦野草園は山野草や野鳥の宝庫ですし、春にはプロのカメラマンが来て、カメラが30台ぐらい並ぶような非常に素晴らしい所です。特に冬の景色は素晴らしいものがあります。すそ野から展望台までは15分ぐらいで登れてとても気持ちが良いですし、鹿やリスも見れます。オサラッペ川も素晴らしいし、朝に写真を撮るとダイヤモンドダストが写ったり、本当に素敵な所だと思います。そういうものを旭川市民が全然知らないということが少し寂しいと思います。

そこで、冬にもいろいろな人に嵐山を登ってもらいたいと思い、北邦野草園の園長に話したところ、ぜひ市民にもこの嵐山を親しんでいただこうということになり、1月から3月の間の毎月1回ですが、「冬の嵐山散策」を行うこととなりました。「冬の嵐山散策」は、公園緑地協会の主催で1月、2月、3月のそれぞれ1回、いずれも日曜日の午前10時から約1時間半行われます。その前日

に展望台まで道を付けて、長靴で気軽に登ることができるようにしていますので、ぜひこのイベントを市の広報誌でお知らせしてほしいと思います。

今、北の嵐山のパンフレットには北邦野草園も掲載されていますので、公園緑地協会の方から少しパンフレットのお金も回していただくような計画も進んでいますので、そのような連携を取りながら一つの地域だということをアピールできるといいです。

旭川駅からたった15分ぐらいのところにあるこのような素晴らしい所を市では何も活用していないかのように見えますが、観光客には雪を体験してもらったり、市民にももっと来ていただけるようにするといいと思います。また、駐車場は整備されましたが、オサラッペ川の両岸の整備や駐車場側の植樹などにももう少し力を入れてくれると、なお一層すそ野にあるギャラリーのためにもすごく良い環境になるとと思います。

市長

その一帯は素晴らしい観光資源ですから、どうもっと活用してもらうかが大事ですね。

ぜひ検討させてもらいたいと思います。

菅井

ガーデニングがブームですが、この嵐山が最北のガーデニングではないかなと思っています。私たちの仲間の西野目さんが「フランボワーズ」という名前のお店を営業されていますが、このエリアではとても有名なガーデニングのメッカとなっており、決して大きな所ではないですが、観光バスが停まるぐらいのお客さんが訪れています。この嵐山公園もそのようなかたちをイメージとして膨らますことできないかなと思っています。

小川

冬の嵐山は夏とはまた違った魅力があると思います。冬は来たことないという方が多いでしょうが、展望台までの道も付けてくれていますし、ここを活用できたら、新たな発見があると思いますし、帰りにギャラリーに立ち寄る機会もあると思います。

市長

そうですね。なかなかお聞きしないと、そういうことも分からないですね。

西野目

本州から来る人たちに、スノーシューを履いて、深雪を踏みしめながら嵐山を歩いてもらうようなツアーなどがあるといいですね。

小川

オサラッペ川を渡るだけでもいい写真が撮れます。宿泊している市内のホテルからバスなどで運んできて、写真を撮ったり、動物の足跡見ってもらうなど、そのようなプランをつくるいいと思います。

市長

観光コースとしてそういうものがあるといいですね。

4 その他(嵐山ジャンプ台の活用について・街灯について)

西野目

先日、名寄に行ってスキーのジャンプを見てきたのですが、嵐山のジャンプ台をどうして活用しないのかなと思っています。静かに暮らしたいという人もいますが、せっかくジャンプ台があるのだから、お客さんも呼べるのに、もったいないなと思いました。

市長

そのジャンプ台は40mと70m級なのですが、公式な練習や競技には使えない規格となっており、スキー連盟からは新しいジャンプ台をつくってほしいとの要望をいただいているところです。旭川にきちんとしたジャンプ台があれば、ここからもオリンピック選手が出るかもしれないので、私もお金が少しできたら新しいジャンプ台をつくりたいとは思ってはいますが、億単位のお金がかかるので難しい状況です。

菅井

優先順位がありますからね。

西野目

この周辺の街灯が暗いのでそれもお願いしたいと思います。
オレンジ色で雰囲気のあるような街灯がいいなと思っています。

市長

球の色がオレンジ色のものですね。
市で付けているものと町内会で付けているものと両方あると思います。

山田

今、LEDに変えようとしているところです。

西野目

せっかく付けるのであれば、ぜひオレンジ色にしてください。

山田

年に5、6個ぐらいしか替えられないようなので、まだまだかかるなっていう感じではあります。それとポールを新規で建てると約30万円も費用がかかってしまいますので、どうしても暗い所から先に年に1灯設置する程度になってしまいます。

市長

あまり暗くて危ないような所は言うていただければ、見てみて市の街灯を付けなければいけない所は付けます。



5 旭川の観光行政と市民の役割について

菅井

最後に、「旭川の観光行政と市民の役割について」ですが、行政のしていることに対して、市民としては一体何ができるのだろうか、私たちはどういうお手伝いができるのだろうかということについて、何かご提案がありますか。

得永

看板の問題などは、どこの部署が所管しているのか、所管している部署がないようなことで起きている問題など、いろいろとあると思います。

これは全市的なことでもあると思いますが、今、北の嵐山というエリアは、観光地としてある程度認められてきている部分もあると思いますので、地域の環境整備も含めて先進的なモデル地区として、もう少し市として愛情を注ぎ込んでいただきたいと思っています。お金をかけなくてもできることはたくさんあると思いますし、私たち自身も自助努力が足りない部分もあると思いますので、私たちができること、また市に協力いただけることと、連携を密にしてうまくかみ合わせてやっていけたらなと思っていますので、ぜひよろしくをお願いします。

市長

はい、分かりました。ありがとうございます。

私もこの地域がもっともっと観光地として脚光を浴びてもらえるようになることは、旭川市にとってすごく良いことです。そうなってもらえるようにしっかりやっていきたいと思っています。

得永

市長には、公務でもプライベートでもいいので、実際この魅力をもっと知ってほしいと思っています。

市長

私自身ももう一回この辺りを勉強させていただきたいと思います。公務で来るとなかなかゆっくりと見れませんが、プライベートで来たいと思います。

得永

ここは住宅地ですから、やはり住んでいる方とうまい具合に共存したり、いろいろな公園、個性的な家や、庭を綺麗にされている所などの良い影響をもらって仕事をさせてもらっているの、そういう部分もうまく守りながらやっていきたいと思っています。それは私たちが考えてやっていかなければいけない部分もあると思います。そういうことを忘れないように、住むという観点と観光という部分がうまくバランスが取れるように協力してほしいと思います。

小川

このエリアのお客さんは落ち着いた人が多く、騒ぐような人はあまりいませんので、今のところうまくいっていると思います。

菅井(睦)

最近になって、改めてこの北邦野草園の素晴らしさを知ることがありました。

深川の方だったと思いますが、ネットで全国の野草の好きな人たちと連絡を取り合って、4月末の開園時に全国のその方たちと野草園に来ることを毎年とても楽しみにしているというお話を聞きました。

私はこんなに近くに住んでいますが、いつも遠くから眺めているだけであまり行かないのですが、遠くから見るだけでも好きで、とてもいい所だと思っていますので、もっともっとファンが増える可能性がある所だと思います。

菅井

地元のことを魅力があると、嘘でもいいから思い込むことがやはり大事だと思います。それを思わないと、よくあるように、地元には何もない、このまちには何もないと言うようになってしまいます。

大谷(岬)

皆さんの素晴らしい意見を伺って、私自身も新たな発見があったような気がします。

西野目

私も十数年前に引っ越してきた時には、この雰囲気にごく感動して、もっと多くの人たちにここを知らせてほしいという気持ちになりました。

市長

ログハウス風の家などが結構多いですね。

菅井

家の外壁など比較的自由に家を建てられる地域になっているということもあります。

家を建てたら、木の一本くらい植えてはどうかと言いたいところですが、最近では小さく土地を買うので木を植える広さが少ないところが多く、それが少し残念だと思います。そこで市の広報誌などで、この地域はとても素敵です、もっと素敵になるために木や花とか植えてはどうでしょうかという提案などをしていただけるといいと思います。私たち自身でもそれはしたいと思いますが、私たち当事者同士では、そういうことはなかなか言いにくいということもありますので、第三者がその魅力を発信していただくことで、もっと良くなっていくという気がします。間違っても雰囲気に合わないようなオブジェなどが建ってしまうようなエリアにはしたくありません。あまり有名になるとそういうケースも出てきますからね。どういう人が入って来るか分からないです。観覧車を建てたいとかいうことになっては困りますから、そうならないようにということを私たちも考えています。

市長終わりのあいさつ

今日は本当に皆さんからの貴重なお話を聞かせていただいて、ありがとうございました。いただいたお話につきましては、細かい部分も含めて検討させていただいて、また皆さんと一緒に進めさせていただきたいと思います。私もこちらの地域のことをもっともっと多くの人たちに知ってもらいたいと思っていますので、どのようなかたちでそれを応援させてもらえることができるか、知恵を絞っていきたいと思っています。今後ともよろしく願いいたします。今日は

どうもありがとうございました。